

心はいつも
旅する
加藤 九祚

ユーラシアンホットライン

1999.4.10
VOL-14

ウズベキスタン日本人会がホームページにリンクを提案

タシケント在住のユーラシアンクラブ会員、川崎健三さんの仲介で、ウズベキスタンのタシケント日本人会よりホームページへのリンクを申込みました。もちろん喜んでリンクを張らせていただく旨お答えした他、同時に情報交換や交流を提案しました。この夏、クラブの親睦旅行でウズベキスタンを訪問する際に、コンタクトすることになります。

既にクラブホームページから簡単にアクセスできるようになっています。

群馬県前橋市でインターカレッジ文化講座をテレビ中継

今年で80回を超える文化講座が群馬県前橋市でも聴講できることになった。ISDN回線を使用し、テレビ会議システムを活用して双方向のテレビ中継講座として放映することになったもので、このほどライブ映像通信イベントを実施しているビデオオンラインワークショップの菊池正己氏が、ユーラシアンクラブのホームページでクラブの活動を知り、メディア化を提案されたのがきっかけ。その後、ユーラシアンクラブ群馬の後藤康子代表が前橋市に働きかけ、菊池氏がテレビ中継機器販売のいづみやアイ・シー(株)に働きかけ、実現の運びとなった。この結果、文化講座と留学生とのフリートークを実施するユーラシアンフォーラムを、首都圏及び前橋市民が初めて受講した。

菊池氏はこれまで東京のほか千葉県、大阪府でのイベント企画を手掛け、ニューヨーク市教育委員会遠隔教育チームとの国際交流オンライン実験やエンターテイメントイベントなどコミュニティと国際化をテーマに活動を続けている。

4月25日の特別シンポジウム「ゾロアスター(教)の誕生と背景」の中継講座では、会場となった前橋市役所ロビーでは、20名が東京の講座を受講し、双方向の質疑応答も行われた。

(協力・前橋市役所、いづみやアイシー(株)、菊池正己(敬称略))

5月16日には、写真展「ユーラシア源流」会場・前橋グランドホテルと、講座会場(オリンピック記念青少年センター)をつなぎ、第1部の講義に続き、第2部として、ウイグル、モンゴル、ウズベキスタン等の留学生のテレビ中継フォーラムも実施する予定。

菊池氏は「これは将来ユーラシア(中央アジア)地域の人達あるいは世界の人達との同時ライブ映像通信を実施する機会への第一歩となる。ぜひ、この感動と喜びをともに分かち合いたいと思います」と話している。

シンポジウム「ゾロアスター(教)の誕生と背景」

TV中継で前橋会場と質疑

1999年度インターカレッジ文化講座の第1回講座が開催された(於・オリンピック記念青少年センター大会議室)。4月は特別シンポジウムのため、留学生参加のフォーラム形式ではなかったが、次回5月以降は、首都圏の留学生も参加するユーラシアンフォーラムの形を取る。

テレビ会議システムにより中継公開された、第1回講座概要は以下のとおり。

基調講演

「ゾロアスターの誕生と背景、研究史」岡田 明憲・和光大学非常勤講師/コーディネータ

「シルクロードとゾロアスター教」井本 英一・桃山学院大学教授

「ヨーロッパ精神史とゾロアスター」前田 耕作・和光大学人文学部芸術学科教授

第3回ユーラシア・コミュニケーションフェスティバルの開催を台意

国際交流基金の協力で、正倉院の復元古代楽器を演奏

1997年、98年と過去2回にわたって行われた芸能祭「ユーラシア・コミュニケーション・フェス」を今年も開催することになった。4月3日新潟県小出郷文化会館で、住民代表及び会館関係者との打合せが行われ、今後同会館の企画運営委員会で協議、住民参加の実行委員会を設置し、定期的に話合うことになった。

今回合意したのは、開催日、開催内容、開催の方向性などで、以下の通り。

開催日：7月31日（土）～8月1日（日）

内 容：

・テーマ「ユーラシアの人と歌、楽器、踊り」

・内 容

1) ユーラシアの歌と日本の歌の聞き比べ

従来言われてきたモンゴルの歌曲オルティンドー（長歌）と日本民謡・追分が、如何に似ているか、を実際に聴き比べてもらう。

（出演）内モンゴルの歌手オドバルと日本の追分歌手

2) 正倉院に保存されてきたユーラシア古代楽器の弾き比べ、聴き比べ

モンゴルの馬頭琴、ウイグルのドタール、沖縄の三線（さんしん）及び地元の三味線や琴の演奏家に、正倉院楽器を弾いてもらい、日本やユーラシアの楽器の比較を行う。

3) 日本とユーラシアの踊りの見比べ

モンゴルの舞踊、ウイグルの舞踊、沖縄のカチャシー、地元の舞踊等踊り比べる。

4) 留学生も参加した交流プログラム

・方 針

1) 地元住民とユーラシアンクラブ会員でフェスティバル実行委員会を構成する

2) 月に1回程度、開催方法、内容について話を継続する

3) 開催によって地域を中心にユーラシア理解が促進され、フェスティバル及びユーラシアとの交流が継続発展することを目指す。

ウイグル留学生 春の祭りを開催

4月4日（日） 東京芸術劇場にて

4月4日、東京芸術劇場で新疆ウイグル自治区のウイグル人やモンゴル人、シボ人らの留学生が集い、イスラムの春の祭りを開催した。

ウイグルからの留学生は1985年に第一期留学生が来日して以来、これまで18年間毎年私立大学協会の招きで留学生が来日している。現在150人の留学生が学んでいるほか、新年度に25人の新留学生が訪れ180人となる。内20人ほどの私費留学生も働きながら学んでいる。家族を含めると、日本全体で300人以上のウイグル人が生活している。3年前、日本シルクロード倶楽部が発足、文化交流や留学生の支援を目的にウイグルを中心とした地域との交流を続けている。

この日の祭りは留学生たちが中心になって企画したもので、留学生が創設した第1回ウイグル学会の活動報告や新しい留学生、学位取得者の紹介など留学生間の交流プログラムを夜まで続けた。ユーラシアンクラブは、会場確保の手続き等で協力した。

写真展「ユーラシア源流—遊牧民の暮らしと文化展」開催

5月15(土)～16(日) 前橋グランドホテル

明治以来多くの日本人が知ることなく、いわば見過ごしてきたユーラシア諸民族の歴史と文化及び今日の暮らしを紹介し、相互理解・交流の一助となるとの趣旨で、ユーラシアンクラブ企画・コーディネートによる写真展「ユーラシア源流」が開催される。

現地で生活する人々に光を当て、その暮らしの一端を伝えるような写真作品を公募し、プロカメラマンの作品と併せて展示。展示される作品の主な対象地域・民族は、以下の予定。

ウズベキスタン、キルギスタン、カザフスタン、ウイグル、モンゴル、内モンゴル、チベット
サハ(ヤクーチア)、少数民族オロチョン、少数民族ナナイ、少数民族ウデグ、等

日 時：5/15(土)～16(日)
10時～9時(2日目は6時迄)
会 場：前橋グランドホテル 2階
入場無料

共催：前橋グランドホテル ユーラシアンクラブ群馬

企画・コーディネート：ユーラシアンクラブ

協賛：㈱インテリアゴトウ 積水ハウス㈱群馬支店

後援：ウズベク大使館 カザフ大使館 モンゴル大使館 在日サハ共和国代表部

群馬県 群馬県教育委員会 群馬県国際交流協会 前橋市 前橋市教育委員会 前橋市国際交流協会

富士見村 富士見村教育委員会 群馬テレビ 上毛新聞社 東京アイヌ協会

財)前橋コンベンションビューロー 社)前橋青年会議所 前橋中央ライオンズクラブ 前橋テルサ

協力：オフィス遊牧民 恐竜王国中里村 中里村恐竜センター 蔵前産業㈱ ㈱群馬フジカラー

㈱ジャパン通信情報センター 新読書社 高崎経済大学付属高等学校 地球と話す会

地球緑化センター ㈱トルコ村 日本シルクロード倶楽部

アロハン 大塚知則 杉山晃造 長澤法隆 萩野矢慶記

岩間典夫 大澤智 小柳博彦 小山久子 斉藤仁子 三枝仁 鈴木吾郎 高橋賢二 高橋かつ江

田中哲二 中川和子 永島務 萩原由美子 町田久雄 道脇義正

<ギャラリートーク ～ 写真家大塚知則氏、アロハン氏>

在日留学生在が自国の文化を紹介するギャラリートークでは、ユーラシアを撮影したプロの写真家、及びモンゴルの留学生在がフリートーク。参会者からの質問も受付ます。

予定時間：11時、2時、4時の3回、各30分程度(両日)

<モンゴルのタバ 歌謡とトーク>

初日15日は、無料のミニコンサートを開催。内モンゴル出身オドバルによる歌謡(モンゴルと日本の歌)、馬頭琴演奏、モンゴル舞踊の公演。後半のトークでは、群馬医科大学大学院生(医学)ノミンゲレルさんのショートスピーチ「故郷モンゴルの春—ノミンゲレルのモンゴル」が行われます。

時間：午後6時半～8時 2階・真珠の間

群馬県中里村の恐竜博物館、日本モンゴル文化文化交流協会を訪問

恐竜王国中里村 中里村恐竜センター ～ 写真展にも協力

ユーラシアンクラブ代表・大野遼と、ユーラシアンクラブ群馬代表・後藤康子は、このほど群馬県中里村の恐竜博物館を訪問しました。同博物館は昭和60年4月、同村内で恐竜の足跡が日本で初めて発掘されたのを契機に建設されました。同地域が恐竜時代にはユーラシア大陸の海岸部に位置し、日本の恐竜がモンゴルの砂漠地帯で発券される恐竜に近いことや、恐竜の足跡発見以前からモンゴル留学生との交流があったことなどから一層、モンゴルとの関係が発展し、ここ数年、モンゴルの恐竜化石の発掘に参加し、現在ではモンゴルで発掘し、中里村で組立て復元するというほど、モンゴルの恐竜学会との関係を深め、格闘中に絶命した肉食恐竜と草食恐竜の、世界でも貴重な格闘化石のレプリカも展示されるなど、手で触れる本物の化石が多数展示されています。恐竜の足跡は、日本列島とユーラシア大陸の関係を如実に物語っています。同村内には、村民有志が出資して建設したモンゴル留学生などの国際交流施設があり、旭鷲山も宿泊したそうです。同施設では、小林一夫村長を初め収入役ら村役場の担当者、恐竜博物館の担当者らと夜遅くまで話合いました。恐竜学の拠点として研究プログラムを現在準備中のほか、周辺地域の調査などを研究者や市民が協力して進めて行くことにしています。クラブでは今後、交流活動で協力したいと考えています。

柏崎トルコ文化村を訪問

このほど新潟県柏崎市にある株式会社トルコ文化村を訪問しました。トルコ村では、本国からやってきた芸能団のミニコンサートが毎日実施され、トルコ料理レストラン、美術館、バザール風のトルコ民芸品、工芸品、絨毯、什器、トルコ石などの宝石類等を購入することができるなど、日本最大のトルコ文化情報拠点。現在新たに15億円を投入して、アレキサンダー大王の復元石棺などを展示するスペースなど拡張工事中で、今年7月以降オープンする予定。来場者の2割がリピーターということで、同文化村がトルコファンの関心に応える努力をしていることが分かります。一度ご訪問されることをお勧めします。

〈短信〉

- ・日本の伝統芸能をユーラシアの中で位置づけようと、ユーラシアの芸能研究者にセミナーをお願いするユーラシア芸能ゼミナールの構想作りが始まっています。今後、人選を急ぐ予定です。正倉院の復元古代楽器を活用し、モンゴル、ウイグル、沖縄、そして日本の三味線の演奏者が弾き比べる催しを、展開するなどの催しを検討したいと思います。
- ・前橋市中央通り商店街の空き店舗を活用して、文化情報発信拠点を整備する「ユーラシアンロード街角プラザ」づくりの話合いが始まっています。話合いの進展に従ってご報告します。
- ・[ビデオカメラ寄贈] ユーラシアンクラブ群馬の後藤康子代表が、クラブの文化講座記録用に、デジタルビデオカメラを御寄贈くださいました。このカメラで記録したフィルムは、ダビングし、群馬県下の活動で活用することにしています。どうもありがとうございました。

発行：ユーラシアンクラブ 住所：〒215-0013 神奈川県川崎市麻生区王禅寺 2485-2-204

電話 044-965-2536 ファックス 044-965-2537 E-mail: PAF02266@nifty.ne.jp

ホームページ <http://member.nifty.ne.jp/EURASIANCLUB/>